

カリキュラム区分		現行カリ			シラバス区分		専攻科			
科目区分	科目コード	履修時期		開講専攻	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位		
		学年	学期							
助産学実践領域	S121	1年	通年	助産学専攻科	必修	助産学実習Ⅳ	45	1		
						Clinical Practice in Midwifery Ⅳ				
担当教員										
今村 朋子		井上 明子								
関連するDPキーワード										
	① 生命の尊厳を基盤とし、助産師としての倫理観と責任感を持ち、対象を尊重することができる。									
○	② 助産師としての役割や責務を自覚し、助産師であることに誇りを持つことができる。									
	③ 女性のリプロダクティブヘルス/ライツに関する健康課題について、広い視野から支援することができる。									
○	④ マタニティサイクルにある対象の個性を尊重し、対象のもつ力を最大限にひきだすための基本的な助産診断及び助産技術を獲得できる									
	⑤ 女性が安心して子どもを産み育てられる環境を整えるために、地域と密着した子育て支援活動が理解できる。									
	⑥ 周産期医療の高度化や多様化する価値観、時代のニーズに柔軟な対応ができる能力を身につけている。									
○	⑦ 助産ケアの質の向上を図るために、研究的視点や科学的根拠を活用し、さらに探究する力を身につけている。									
授業目的										
助産師として、妊婦やその家族の出産・育児力を高めるための集団教育を企画・運営する力を習得する。										
到達目標（授業目標）										
1. 助産師が実施する集団教育の意義を説明できる。										
2. 対象のニーズに合った内容を吟味し、企画書・指導案を作成することができる。										
3. 参加型の企画を立案し、効果的に実施できる。										
4. 効果的な媒体を用いて、対象に伝えることができる。										
5. 知識の根拠に基づいた指導内容を立案することができる。										
6. グループ活動に積極的に参加し、役割を果たすことができる。										
授業計画（項目・内容と方法・担当者）										
授業概要	1. 実習期間、実習時間 7月以降、教室の開催状況に合わせて見学実習を行う。 11月から1月にかけて教室の企画準備を行い、妊婦を対象とした教室を開催する。									
	2. 実習場所 （一社）愛媛助産師会 まつやま助産院									
	3. 実習展開 詳細の流れは、別途提示する。									
成績評価方法及び基準										
実習評価表（100点）の項目について、実習内容および到達度、実習態度を点数化し評価する。60点以上を合格とする。										
教科書		堀内成子「助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ」（医学書院）								
参考図書等		オリエンテーション時に紹介する。								
授業時間外の学習について（授業準備のための指示）										
教室の開催に向けて、企画書の作成から指導案の作成、運営準備など授業時間外のグループ学習が必要となる。										
関連科目										
前科目		助産診断技術学Ⅰ～Ⅲ	S110	助産診断・技術特論	S112	統合ヘルスケア		助産学実習Ⅰ～Ⅲ		
後科目										
実務家教員										

備考	
----	--